

## 宮田町一丁目とは

宮田町一の七二

吉原 栄太郎

昔は橋花郡保土ヶ谷町大字帷子山下でしたが、昭和二年横浜市に編入され、町界町名整理の際宮田町となりました。町名の宮田は橋樹神社の神田であったことに因むものと云われます。

又、その後地番整理が行われ、宮田町一丁目二丁目三丁目となりました。

宮田町一丁目の昔話し

### 一、山下の街道

宮田町一丁目は山下と云われた所で旧東海道の街道でしたが、徳川時代になって松原商店街の街道が開通し、東海道がそちらにうつりました。

然しこの街道は八王子方面へと通じておりましたので、横浜港開港による生糸輸出のための八王子方面より横浜港に通じる重用な運搬道となり、俗に云う生糸の道になりましたが、横浜線（国鉄）の八王子と東神奈川間の開通によりこの街道は利用されなくなりました。

生糸は当時は馬力により運ばれなかなか賑わったそうて盆には「カボチャ」、暮れには「潮引き」を購入して帰る人が多かったそうて街道筋の商人は商売になったそうです。

### 二、お祭り

○初午まつり

山下にもいなり様が、追分より滝本、足立（昆布や）荒井・足立氏と数社がありました。初午祭には宵祭にそれぞれの講中の人々が集りご馳走をし、初午の朝には講中の各家は紙のぼりと油あげ赤飯などをいなり様

にあげに行きました。

子供たちは供物の菓子・みかんなどをもらうため学校から飛んで帰って、いなり様の前に並び供物をもらうことが大変楽しみました。子供たちは一日中いなり様の太鼓をドンドンと打鳴して遊びました。

○天王様のお祭り

天王様のお祭りは以前は六月、九月の年二回ありました。大変賑わいました。

この祭りには多くの山車の巡行がありました。宮田町でも一、二丁目でも有志の方の努力で山車が各一台づゝありましたが、戦災の為一丁目の山車は焼失し、二丁目の山車は幸にも焼け残り、それを現在町内会で引いております山車で、二丁目海老原安五郎さんその他の二丁目の有志の方々のおかげです。

○念仏講

数戸が一グループになり毎月もちまわりで一回講中の家で念仏を唱え、娯楽の少い時代でしたので宿になった家では色々ご馳走を作り待遇し、その夜は深夜まで話しがはずみ日頃の疲れをいやしたものです。

この講中は戦災でやめになりました。

### 三、子供の遊び

○兵隊ごっこ

大正時代は子供の遊びにも兵隊ごっこが取り入れられました。

山下の子供が今の宮中の山の端に立って旗を振るとこれ松原の子供達が追分の墓地の中の墓地中の坂道を駆け登り、浅間台小グラウンドの所で合戦がはじまり、互に攻め合いしばらくして山下軍は負けて鎌谷町の方まで逃げたものですが、この戦争ごっこは子供達に人気があつて、負けても負けても何度も繰り返えされました。